



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学と地域社会のパートナーシップをめぐる今日的模索：北海道の事例を中心に
Author(s)	姉崎, 洋一
Citation	社会教育職員研究, 12, 19-24
Issue Date	2005-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44660
Type	journal article
File Information	SKS12_19-24.pdf



大学と地域社会のパートナーシップをめぐる今日的模索 — 北海道の事例を中心に —

姉崎 洋一 (北海道大学)

はじめに

報告の限定

- ・報告者の所属する研究室での調査・研究に依拠し、当然ながら限界は多く、上記テーマに内在する課題を全部カバーするものではない。
- ・社会教育職員養成研究にだけに結びつく報告ではない。
- ・大学が社会に果たす機能、役割、現実動態をパートナーシップ構築の視点から事例調査を行ってきた中での中間整理の段階の報告（はいまわる経験主義にならないことの自戒）
- ・北海道を対象としてきたことの優位性と限界（大学を取り巻く諸要因の複雑性において比較的シンプルで透明な姿を持つ。地域大学の持つ困難さの多くを現している。本州とは違う要因を幾らか有している。）を意識してきた。
- ・制度としての大学・短大を対象としたので、いわゆるカウンターユニバーシティ（〇〇住民大学、〇〇自由大学など）やボランティア団体と自治体などの連携による〇〇市民大学などを対象には、今回はしていない。ただし、大学拡張型の実践は調査の中から幾つかの優れた事例を見いだした。

大学の置かれた共通した状況

- ・大学の機能において研究・教育・管理運営・社会貢献の相互関連性が、かつてなく問われ意識されてきていること、大学の機能・社会的使命の再把握が現代教育改革・大学改革の激動の中であって真摯に自覚されてきている。また、そのことは抽象的にではなく、大学の生き残りや経営、大学の構造改革の進め方の中で具体的に模索されている。
- ・大学の入り口と出口における学生のリクルートやキャリア形成、専門職養成における多様な実験的な取り組みがなされ、大学教育学とでもいうべき実践が専門学部の枠を超えて意識され始めている。
- ・その際に、教育学の知見の革新が求められ、社会教育的な視点や蓄積が重要性を増している。それは、学士課程だけでなく、大学院教育にも及んでいる。社会人学生（院生）の教育研究指導、専門職大学院、社会人の再研修、インターンシップ、基礎教育と卒後教育との統一、生涯学習者養成としての教養教育と専門教育の結合、臨床・臨地型教育、フィールドワークとeラーニングや遠隔教育の双方の新たな試みの模索など。
- ・従来の講義と文献講読型演習に加えての多様な自己決定型学習への介入・指導・援助、が求められ、調査、実験、比較研究能力への援助が重要性を増している。

- ・自己点検評価、ピアレビューのみならず、第三者評価の重要性が増し、説明責任、費用対効果、外部資金導入、産官学連携、学生からの教育評価、質的保障、教員の流動性など競争的環境の進展が多くの大学で迫られた現実となっている。

1 これまでの調査の経緯と対象地

○2001年 道央札幌圏+道北調査

道北：市立名寄短期大学、北海道教育大学旭川校、旭川医科大学、拓殖大学北海道短期大学
札幌・道央：千歳科学技術大学、札幌大学、
サテライト施設（北海道医療大学、小樽商科大学、札幌学院大学）

○2002年 道東+札幌圏

道東（帯広・釧路）：帯広大谷短期大学、帯広畜産大学
釧路公立大学、釧路短期大学、北海道教育大学釧路校、帯広大谷短期大学
札幌圏：北海学園大学、酪農学園大学

○2003年 函館+札幌圏

函館地区：北海道大学水産科学研究科・水産学部、北海道教育大学函館校、函館大学、
公立ほこだて未来大学
札幌圏：北星学園大学

○2004年予定 北見・オホーツク地域+札幌圏

北見・オホーツク地域：北見工大、道都大学、東京農大（生物産業学部）、
日本赤十字北海道看護大学、（稚内北星大学、北海学園北見大学）
札幌圏：（札幌医科大学、北海道教育大学札幌校、？）

*調査の方法

調査方法・目的の検討と仮説づくり→対象地と大学・短大の事前学習→質問項目の検討→訪問調査→調査の振り返り→補足二次調査→ヒアリング記録の当事者による点検→報告書作成における研究討議→報告書の刊行と検討→次年度への教訓

*調査主体と協力者

調査主体：教員、学生・大学院生

調査協力者：該当校の教員、事務局、学生、関係自治体、地域団体、商工会議所、新聞社など

2. 理論問題

大学と地域とのパートナーシップ構築に関わる実践の意味づけ

① パートナーシップ論の整理（詳しくは別紙資料参照）

5つのベクトル

- 1) 中央と地方とのパートナーシップ
- 2) 民間団体・企業、自治体活用原理としてのパートナーシップ
PFIなどのNPM手法
- 3) 教育実践でのパートナーシップ
- 4) 異なる団体・期間間の対等平等論として
- 5) 高等教育機関と外部社会との協働関係
コミュニティモデル、エンパワーメントモデル、企業連携モデル

② まちづくりと生涯学習支援専門職員の養成課題

「大学との連携による地域学を通じてのまちづくり推進調査報告書」2003
カウunterユニバーシティの可能性と限界、
現職社会教育関連職員の大学院での支援指導

③ 大学の目的・理念と大学の社会貢献・大学成人教育の役割

生涯学習研究センターと高等教育研究センターとの乖離並立問題
イクステンションセンターの問題
CF、韓国の大学平成教育センターの動向（科研調査）

英国の動向、リーズ大学調査中間報告（北大教育学研究科紀要）

CF

北海道大学大学院教育学研究科高等教育研究グループ『高等継続教育研究』1, 2号、
高橋寛人『公設民営大学設立事情』東信堂、2004
高崎経済大学付属産業研究所編『大学と地域貢献』日本経済評論社、2003
友成真一『現場でつながる地域と大学』東洋経済新報社、2004

3. 調査によって浮かび上がってきたこと

2001年調査

① 地域連携・コミュニティ密着型短大の教育・研究実践

市立名寄短大、拓殖大学北海道短大

教育重視、地域貢献重視、特色・個性の重視、経営問題

柔軟な改編（学科、カリキュラム）、卒業生の役割

地域とのパートナーシップ（研究所、役場、NPO）

4大化へのスタンスの違い

- ② 目的養成大学の厳しい改革努力
 北海道教育大学、旭川医科大学
 人材育成（ヒューマンキャピタル）、専門職養成
 統廃合（教育大学）や連合大学（旭川医大）の動き
 生涯学習教育研究センター（社会教育主事講習の主催部局でもある）問題
- ③ 公設民営大学の実験
 千歳科学技術大学
 自治体の大学誘致、ホトニクス研究、NPM手法、コンソーシアム
- ④ サテライト施設の実態
 北海道医療大学、小樽商科大学、札幌学院大学
 それぞれの独自の性格
 卒後研修、社会人大学院、大学版加チャセンターと宣伝
- ⑤ 大学の国際化の光と陰
 札幌大学
 Fランクの打破、外国人学生への援助のありかた

2002年調査

- ① 地域連携・コミュニティ密着型短大の経営環境の厳しさと努力
 釧路短期大学、帯広大谷短期大学
 標茶町との連携公開講座（釧路短大）、音更町との福祉協賛事業（帯広大谷短大）
 大学間連携の不活性、地域自治体の大学作り計画との関係性
- ② 高校生の進路選択と大学配置問題
 10 ポイント以上低い大学進学率と大学配置
 帯広地区や根室地域
- ③ 一部事務組合立公立大学の実験と現実
 釧路公立大学
 文部科学省の大学配置指導の不均等問題
 研究教育の地域性と普遍性・グローバル性
 学問水準の維持と教育可能性
 産学官連携の可能性と地域貢献
 学長のリーダーシップと民主主義的合意との温度差
- ④ 目的養成大学の異色の実験
 教育大学釧路校の地域連携推進事業
 地域の祭りへの大学の開放、
 教育委員会との連携 子どもアクションプラン

オブショナル教育実習の活用

廃止統合への地域をあげての反対運動

町の経済文化と大学の立地の意味

⑤ 国立地方単科大学の生き残り戦略

帯広畜産大学（CF、小樽商科大学）

教育カリキュラム改革、教員評価基準の改訂

統合策への代案づくり

COE的水準、産業クラスター事業、地域との連携強化

⑥ 総合大学型地方私立大学の優位と限界

文理総合大学（北海学園大学）

地方公務員就職に強い

二部重視の社会人学生・院生

私立大学間の連絡調整

法科大学院の構想

⑦ 地域への社会貢献での大学拡張

酪農学園大学

建学の理念・創設者の構想とその後の変容

三愛塾運動 大学拡張型実践

別科の役割 中堅農業者育成

北大・帯畜大との棲み分け

2003年調査

① 地域社会に於ける大学の機能を構造的に見る

大学間連携：大学コンソーシアムの萌芽

地域再生計画としての函館国際水産・海洋都市構想のゆくえ

公立はこだて未来大学のインパクト

学生参加型のまちづくり

② 研究大学における地域性とユニバーサルな性格との統一の困難

北大水産学部と水産科学研究科とのねじれ

北大札幌キャンパス統合への動きの挫折地域生きる方針

③ 公立はこだて未来大学の成立と期待

長い大学誘致運動の紆余曲折と結果としての未来大学

グローバル大学

学生の主体性発揮

④ 目的養成大学の成果と自信と悲哀

教育大学函館校

障害児サマースクール、

地域での影響力

⑤ 教育に徹する

函館大学 従来路線の転換

カリキュラムに従来型演習とは違う〇〇塾型開講

学長自ら立っての校門での挨拶

大学の売りになる学問

⑥ 外国大学日本校の自立の厳しさ

ロシア極東国立大学函館校

インフラの厳しさ

学院認定問題（専門学校的扱い）

卒後の位置づけ